

京都教育大学附属京都小中学校

(様式4-2：令和2年度 モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）にかかわる学校支援制度
実施結果報告書)

実施結果報告書

1. 学習名称： 総合的な学習の時間					
2. テーマ： 京都の公共交通と街づくり					
3. 実施教科： 総合的な学習の時間，国語					
4. 関連単元： 国語「みんなが過ごしやすい町へ」，「グラフや表を用いて書こう」， 「この本，おすすめします」，「提案しよう，言葉とわたしたち」					
5. 実施単元数： 年間30時間					
6. 学年	5年	7. クラス数	3学級	8. 生徒数	94名
9. 実施内容 参考：計画書の内容 活動・実施計画 ※対象学年及び参加者数、活動のねらい、時期、内容、方法、期待される成果等を明記すること。 1 対象学年・・・小学校第5学年 2 参加者数・・・94名 3 活動のねらい 世界的な観光都市「京都」の公共交通が、どのように街づくりに関わっているのか、また、どのように各国の人々に対応しているのか、「地域の公共交通と街づくり」をテーマに、京都の公共交通の歴史を知り、過去・現在・未来へとつないで、「未来の京都」を考え、発信していく。 4 時期・・・6月～2月 5 内容・・・総合的な学習の時間，社会科，理科の教科・領域の授業時間を活用する。 特に義務教育学校の利点を生かして、小学校5年生の学びを中学校3年生まで活かしていけるような学びの中で、5年生の取り組みを位置づける。(添付資料) (1) 京都の公共交通の歴史を知る。 (2) 京都の市バスや市営地下鉄など利用状況や路線図などを調べ、観光都市としての特徴を探る。					

(3) 世界的な観光都市や日本有数の古都として、将来、発展し続けていく未来の京都の姿について、「公共交通と街づくり」の視点から描く。

6 方法

(1) 各学級の中で4人グループを作り、グループごとにテーマを決めて、探究活動を行う。

(2) 市立図書館、京都市交通局、京都市科学館など京都市内にある博物館等も活用して、京都の公共交通の歴史や現在の京都市の取り組みなどを調べる。

(3) 専門家による講演を行い、観光や交通に対する専門的な知見を深める。

(4) 調べた内容をポスターにまとめ、自分たちの考えをグループごとに発信する。

発信をする場として、全国の教員を対象とした研究協議会等を活用する。さらに資料として、冊子を作成する。

7 期待される成果

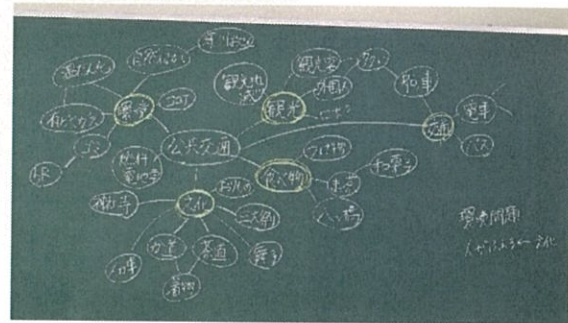
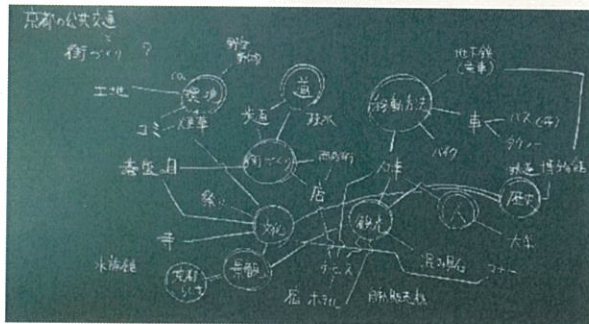
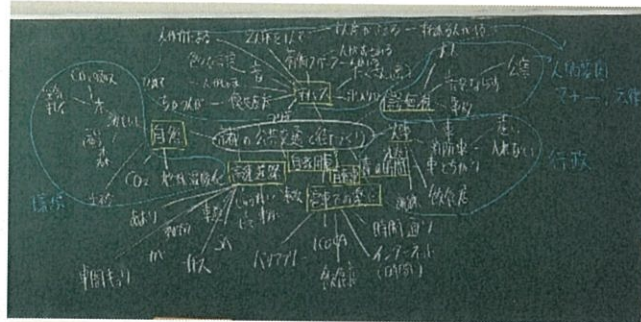
・世界的な観光都市として、グローバルな視点で街づくりを考えることができる。グローバルスタンダードが叫ばれる中、それを生徒は実体験できる。

・歴史的な都市として、過去から未来への変遷を知ることができ、これまでの人々の知恵を活かした新しい街づくりへつなげることができる。そして、生徒の京都への愛着を深めるとともに、創造力を高めることができる。

・校内だけではなく、学外への発信をすることで、京都の良さを発信できるとともに、生徒の表現力を伸ばすことができる。

10. 学習のながれ：

まずは、各学級でモビリティ・マネジメント（一人ひとりの移動や、まちや地域の交通の在り方を、工夫を重ねながらよりよいものに改善していく取り組み）の概要について知るところから学習を始めた。その後我々が住んでいる“京都”を舞台としてそれぞれがイメージを膨らませ、現状の問題点やより深めていきたい内容について広げていった。（以下の黒板写真）



次に、一人1台のコンピュータを使用しながら、個人での調べ学習やそれらを持ち寄った学級での交流を通して、最終的に、「環境」、「観光」、「交通」、「文化」という4つの大きな分野に絞り込んだ。それぞれの問題意識をもとに各学級が混ざるように3～4人ずつのグループに分かれた。興味や課題意識が近いグループ、異なる視点で考えているグループなど、各グループの状況は多岐にわたり、時間をかけながらグループテーマを決定した。その後さらにインターネットを用いながら多くの情報を集め、検討を重ね、議論していく中で、各グループが調べた内容とそれぞれの提案を模造紙2枚のポスターにまとめた。また、そのポスターの内容の詳細についてまとめた2枚の原稿も作成した。

これらの学習の過程では、「京都の公共交通と街づくり」の内容だけに限らず、情報の集め方やその利用のしかた、ポスターや原稿へのまとめかた、グループ内での意見交流や発表のしかたなど、国語科や技術科での学習内容との関連も多く、これらの教科の授業とも並行しながら学習を深めた。

最後に学年でポスターセッションの時間をとり、ポスターの発表と質疑応答を行った。30分間の中で6名程を相手とする少人数でのポスターセッションを何度も行うことで、相互作用的に学習を深めていた。最終的にこれらのポスターと原稿をデータ化し、それらを冊子としてまとめ全員に配布すると同時に、教員内でも配布・共有し、今後の系統的な学習の構築に向けた資料として活用する。

※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。